

## Press Information

### SFP モジュール向けマルチレート 3.3V レーザドライバ、 SFF-8472 デジタル診断の要求に完全対応

**MAX3735** は、自動パワー制御付 3.3V マルチレートレーザドライバです。MAX3735 は、SFP-及び SFF-8472 とコンパチブルな光モジュールに最適で、DS1858 コントローラ IC と併用すると、すべてのデジタル診断及びタイミングの必要条件を満たします。このデバイスは 155Mbps ~ 2.7Gbps で動作し、FEC 付シングルモード OC-3 ~ OC-48、ギガビットイーサネット、及びファイバチャネルモジュールで使用することができます。MAX3735 は、第二世代となる独自の SiGe プロセスを使用して製造され、小型で、超低電力消費、及び優れたジッタ性能を備えています。

このレーザードライバは、SFF-8472 の機能を組み込んだ SFP モジュールのタイミング及び診断の条件をすべて満たしています。この製品はバイアス及び光電流モニタ出力、送信ディセーブル機能、及び送信障害/シャットダウン出力を備えています。MAX3735 により、外付け部品不要で送信側デジタル診断を実行することができます。

MAX3735 は 3.3V の単一電源から動作し、バイアス電流範囲は 1mA ~ 100mA でプログラマブルです。変調電流は、DC カップリングの場合 10mA ~ 60mA、AC カップリングの場合最大 85mA まで設定可能です。MAX3735 は消費電力がわずか 90mW で、差動 CML コンパチブル入力を受け入れ、自動平均パワー制御回路が組み込まれています。MAX3735 のエッジ速度遷移時間はわずか 51ps で、わずか 18ps の確定的ジッタ及び 0.7ps のランダムジッタしか発生しません。MAX3735 は、4mm x 4mm の 24 ピン QFN パッケージ又はダイで提供され、工業用拡張温度範囲(-40 ~ 85 )での動作が保証されています。MAX3735 及び DS1858 を用いた SFP トランスミッタ回路構成で評価キット及びリファレンス設計も提供されます。

